

弾劾声明

△全国口と青年労働組合の助成会△

すべての仲間たち、

われわれは、悲しみのなかで、しかし怒りをもってこの声明を発表する。

わが日本全協の創建を領導し、帝國主義と対決する勇気運動の階級的任務を担いし不可路糧を打ち出し、その指導を先頭で担いぬいた同志・山岡強一が、憎んであまりある日本国粋会・金町一家の兇徒に殺された。

享年四五歳又九月だった。

(一)

一月一三日午前六時五分。同志・山岡強一は、新宿・ヤ山高イツの都館住宅から、アスレ認定をうけようと、友人と共に新大久保駅に向っていた。

車二台に分乗したテロリスト共は、同志・山岡を待ち伏せ、双眼鏡で確認し、背後を追尾した。奴らは、大久保二丁目交差点をすぎたところで車を飛び降り、三二口径のロストルをかまえて立ちふさがった。

最初の一発で同志・山岡の動きを止め、頭と胸を撃ち抜いたこととめをさせた。その守口である。下手人は、見届人が荷殺ししていた車と共に逃走した。のりすこられた車は、昨年来、山岡争議団の活動を監視しつづけるのに用いられたものだった。

(二)

同志・山岡に対する天皇主義右翼・国粋会金町一家の毒殺テロは、われわれの攻勢的エビ及びに追いつめられた反革命攻撃隊の、決して許すことのできないテロルである。

一九八三年一月三日、金町一家は傘下の面戸組を、天皇主義右翼政治結社・皇誠会として登場させ、「明治節(文代の日)」の暗国神社参拜に当り、このキエ産に、國際主義の赤旗を掲げる山岡争議団への武装襲撃を企てた。この目論見は、山岡争議団を先頭する一〇〇人の沃起で打砕かれた。尊皇を掲げた情直車は茂れられた。

公安、浅草署の凶悪準備集合テッテあげ、三七人逮捕、一二人起訴、延べ八〇人をつくる組織解体弾圧に感ずることなく、日本全協の総力をあげて、「一八〇日間闘争」をたたかいた。同志・山岡は、その先頭をたかった。

八四年九月、こぞこぞと、「山岡互助組合」として、キ配師・人夫出しの「現代版労働組合」への再組織化をはかっていた面戸組を捕獲、全斗煥を阻止し、天皇会談粉砕闘争と結合して、「山岡互助組合完全解体」のたたかいた止上った。

同志・山岡は、その先頭に立ちつづけた。
ゆいゆいは、金町一家の全体重をかけた武
装襲撃とテロ、公安、浅草署の弾圧と暴虐を
はねかえし、西戸相事務所を激収させ、「互
助組合活動」を完全に行いこめた。

金町一家は、西戸相を懐中深くみかえこみ
天皇主義石叟としての使命のため、再々度
政治、武装登場の機会を獲つようになった。

八四年一月五日、同志・山岡は、浅草署
公安によりゆいゆいの隊列からみかえこみ
日本国青年会・金町一家総代金重組の若頭、直
藤正人の前にひき出された。山岡争議団の指
導者として、金町一家に特選せられたのだ。
この日を契機に、金町一家はセタリと表の動
きを止めた。警察と暴力団が、「戦後の終決
算」に見合う治安体制と、天皇を擁護しとす
る愛国・排外主義の動員構造の確立のため
山岡争議団解体の要として、同志・山岡への
虐殺攻撃を仕組んだのだ。

八四年一月二二日、西戸相・高井榮一に
よって佐藤満天監督が虐殺された。このにく
みバチ島美は、いわゆる「市民社会生活者」
の曰雀一層労働者に対する差別意識と、そ
れを橋杆とする寄せ場労働者に対する差別煽
動に覆いかくされた暴力団の曰雀労働者支配
の裏態、市民社会の底辺でうごめいている山
岡における天皇主義石叟の裏相をあはき出す
「映像」に対する虐殺攻撃だった。

山岡労働者は、三〇〇〇人の暴動でこの暴
虐にぶえた。

八五年一月一九日、性懲りもなく手配師
の組織化とセンハネを画策した、西戸相のナ

ンバー4の暴動は、大衆的な暴力糾弾と再登
場を打ち砕かれた。佐藤監督を殺一周忌の日
には、山岡一投りゆいゆいから投りかえせしが
同志・山岡を中心とした製作上映実行委員会
によって完成した。この映画は、帝國主義の
労働者支配と天皇主義石叟に対して、的確に
銃口を向けこいる。

八五年一月二日には、西戸相をかこい込み
山岡労働者の生活過程に奥深くはいりこんで
敵対を画策する金町一家の事務所と、暴力団
の隊形に走る機動隊に対する暴力糾弾行動が
「寄せ場支配再編を許すな！ 国策事業職員と
事務所を打ち砕け！」をスローガン
とする越冬闘争の中できりこみつづけた。

同志・山岡を殺は、ゆいゆい曰雀全協と山
岡争議団のたないの前進に対するテロルを
もつこの反投攻撃として仕掛けられたが、ゆ
いゆいは決してみまない。煮えたぎる怒り
を胸に、同志・山岡の思想と実践に学ぶ前進
する。

そして、必ずや同志・山岡の無念を晴らす。
一三日、一五日と反撃は前始された。
ゆいゆいは、悲しみをのりこえてファシス
ト戦に勝利する。
一九八五年一月一日

同志 山岡強一のまろファイル

- 同志・山岡は、一九四〇年七月一五日に産れ、北海道函館（ウリヤウ）郡若田町に、炭坑労働者の息子として育った。
- 一九六八年一月、山谷に入り、いまなお「マンモスホリムせんめつ」の教員として旭川刑務所に無期刑で在監を強いられ、教正宿居の押下下にある磯江洋一氏らと、東京日産労働組合の運動を推進した。
- 一九七一年、船本洲治同志らと出会い、新たのEにたいの機業を開始し、一九七二年の夏、同年六月に結成された「悪徳手配師追放委員会（壺支部）」に呼び出されて、山谷の「悪徳業者追放現場闘争委員会（現闘委）」に結成に尽力。よせ場労働者の全国団結に種々しい一歩を刻印した。
- そこで、以降、Eにたいの先頭に立った。
- 一九七五年六月二五日、船本同志の脱身決起。このを受け、現闘委の総括を深めていく。
- 一九七九年八月九日、磯江洋一氏単身決起をうけて「エ・九闘争の会」を結成。同志の意志をひきうけてEにたい脱々と決意する。
- こうした成果のうえで、全国日産労働組合協議会（日産全協）創建を主導した。同志山岡の歴史的役割もあった。
- 一九八二年八月二七日に日産全協が結成され、同志・山岡は評議員に就任する。「皇誠会戦」「互助会戦」を、起訴攻撃をうけつつも、つねに又一線ではEにたいぬいた。
- その中で、同志・山岡は、日産連帯や反天皇制運動と日産全協のたにたいの結合をのぞく指導を深め、佐藤満夫監督虐殺以降は、彼の遺志をうけついで、山谷のドキエムンタリー映画の製作に邁進した。

山谷争議団のメンバー

通行中、射殺される

犯人は組員？



山岡 強一さん

十三日午前六時五分ごろ、東京新宿区大久保一の三の四の路で、台東区日本堤二の三八の七、山谷争議団メンバー、山岡強一さん(37)が友人と一緒に歩いていたら、歩道わきに駐車中の車から降りてきた若い男が、いきなり山岡さんに向け、短銃を四発発射した。弾は四発とも山岡さんの首や胸に当たり、近くの病院へ運ばれたが、午前六時半すぎ出血多量で死亡した。男はとめていた車で逃

げた。
新宿署は殺人事件として調べていたところ、現場から西へ約一キロ離れた新宿区北新宿二丁目の路上に、犯人に使用されたと思われる車が乗り捨てられていた。車のナンバーは

トラブル続発

労働組合の山谷争議団は一九七〇年代後半から暴力団系手配師の過激活動を続けていた。一昨秋、同地区でとほくの利権を握っていた暴力団系野合金町一家西戸組が手配師業にも進出、争議団とのトラブルが頻発した。同十二月には、争議団と兵衛してドキメンタリーフィルムを

どから犯人は暴力団西戸組のメンバーとみている。
犯人は三十歳前後、身長一六五センチ、赤い上着を着ていた。殺された山岡さんは、仲間

の客で酒を飲み、一緒に山谷へ帰るため国営新大久保駅へ向かう途中だった。同署は計画的な犯行とみている。

撮影していたフリーの映画監督、佐藤清夫さん(当時三十七歳)が、西戸組組員に背後から包丁で刺殺された。映画はその後撮影が続けられ、昨年末「山谷」が完成、全国で映演が始まった。殺された山岡強一さんは古参の活動家で、この映画製作の中核メンバー。西戸組糾弾運動の先頭に立っていた。

1/15 内外 91ムズ

さらに2人逮捕 争議団員射殺抗議デモ

日雇労働者組織「山谷争議団」は十四日早朝、同争議団の労働者約七千人がデモ行進中に労働者一人が機動隊員に向かつて短銃を投げ、公務執行妨害の現行犯で逮捕された。また

1/4 東京新聞 9刊

た運送車を運転していた同争議団支援者一人が道交法違反で逮捕された。
同争議団は三日、午前六時半過ぎから、同争議団地区派出所の山谷通りで、射殺された山岡強一さん(37)の死を悼むデモの配布や抗議のシブレットを繰り返した。阿七時過ぎ、同区清川二丁目の上野公共職業安定所玉姫労働出張所まで、デモ行進した。

山谷で小競り合い 2人逮捕

活動家射殺事件で、山谷争議団の活動家山岡強一さん(37)が射殺事件で、十三日夜、抗議の争議団メンバーや地元の労働者計約四百人が、警備の機動隊に石や火炎瓶を投げる騒ぎが起きた東京都台東区山谷地区では、一夜明けた十四日朝も、争議団や支援グループの約七十人が「虚銃を許すな」とデモ、徹夜で警戒の約二百人の機動隊と小競り合い。午前八時前、デモの参加者三人が公務執行妨害などで現行犯逮捕された。

1/13 毎日新聞 夕刊

山谷争議団幹部射殺される

日雇い手配に絡み、十三日午前六時五分ごろ、東京新宿区大久保一の三の四の路で、知人と一緒に歩いていたら、台東区日本堤二の三八の七、山谷争議団メンバー、山岡強一さん(37)が、友人と一緒に歩いていたら、歩道わきに駐車中の車から降りてきた若い男が、いきなり山岡さんに向け、短銃を四発発射した。弾は四発とも山岡さんの首や胸に当たり、近くの病院へ運ばれたが、午前六時半すぎ出血多量で死亡した。

って対立が続いていた暴力団国親金町一家西戸組関係者の犯行と見て捜査している。

警視庁捜査四課と新宿署は、山谷争議団と以前から日雇い労働者の手配をめぐり

抗議の山谷 大荒れ



山岡さん射殺事件の抗議に集まった群衆が機動隊へ火炎瓶を投げ、燃え上がる路上—東京・台東区山谷派出所付近で

機動隊に火炎瓶

支援者射殺

(東京新聞 朝刊)

6人逮捕 乗用車焼き打ち

東京都台東区の通称山谷地区の山谷通りで、十三日夜、日雇労働者組織「山谷争議団」のメンバーらが、同日朝霧方面員らに男に射殺された仲間山岡強一さん(三三)の追悼行進を始めたところ、これを阻止しようとした警察の機動隊員と小競り合いになり、火炎瓶十数本が投げられ道路もまた車中の乗用車二台が焼かれた。この騒ぎで三人がけがをし、六人が公務執行妨害、火炎びん投擲法違反の現行犯で逮捕された。警察側は浅草、南千住機動隊員の総勢五百人が深夜まで警戒に当たった。

3人軽いけが

「山谷争議団」のメンバーや労働者らは、この日午後二時過ぎから浅草山岡地区派出所前に六十人ほどが集まり、山岡さんに対する追悼行進や暴力団を糾弾する演説を始めた。午後五時ごろには百人以上に増え、山谷通りを「警察は暴力団に甘い」などと叫びながら行進し始めたため、機動隊員らがシニールミンの盾でこれを阻止しようとして小競り合いになった。「争議団」のメンバーらは清涼飲料水の空き瓶などを投げ、通りは二百ほどにわたってガラスの破片が散乱。交通はストップし、警察官にもけが合いになった。

騒ぎを聞いて同区日本堤、蒲川、荒川区南千住など、山谷地区には数百人近い群衆が集まり、騒然とした空気がなった。午後八時半ごろ、山谷地区派出所から約五十軒ほどに野営の山谷通りで火炎瓶十数本が投げられ、道路わきの乗用車二台に命中して

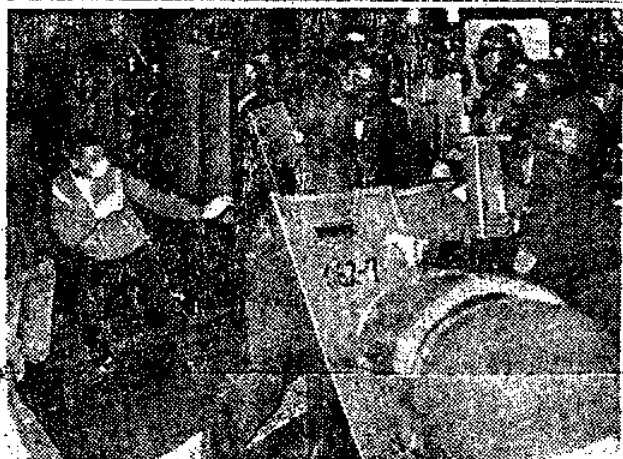
犯行車の所有者確認へ

犯人 山岡さんの行動察知

東京都台東区大久保の路上で十三日早朝、山谷争議団のメンバー山岡強一さん(三三)が射殺された事件で、新宿警察署は同日夜までに、犯行に使われた乗用車は、名義人の女性が次に転売されて

東京争議団のメンバーのほか、大阪・釜ヶ崎などから集まった支援者ら六、七十人が車隊になるなかで山岡さんが射殺された状況について察知された。

同日夜の騒動で、現場付近にいた男性二人が顔などに怪我があがり、救急車で近くの病院に運ばれた。



機動隊員と小競り合いする労働者たち—東京・台東区山谷地区で

区内の女性が昨年夏知人に死傷、その後、数人に転売されていた。名義人の女性は暴力団とは無関係で、捜査本部は販売ルート不明を急いでいる。

また、同本部は犯人が山岡さんが通りかかる直前に現場に乗り込んで乗りつけ停車していたことから、山岡さんが前夜から現場近くの知人家にいたことを知って待ち伏せした公算が強いとみている。

犯人以外に車内に入っていたかどうか分らず、車内から犯人に結びつく有力な手がかりは発見されなかった。

捜査本部は山岡さんの左わき腹などから三三口径の弾二発が検出されたため、短銃は三三口径と断定、解剖結果から山岡さんは一小时前後から射られたことが分かった。

一方、金町一家は山谷争議団としては抗議事件を起してあり、去る日にも山谷争議団と交われる三、四十人のグループが、台東区蒲川二丁目の金町一家本部事務所を押しつける騒ぎがあり、投石で事務所一階の幹部宅窓ガラスを破った。一階事務所には飾ってあった正月用しめ飾りが壊れる一幕もあった。

こうしたことから、捜査本部でも捜査本部を金町一家に派遣、最近の争議団との関係などについても調べている。

山谷争議団の幹部射殺さる

1/4 内外タイムズ

早朝、新宿の路上で

車乗りつけ2人組発砲

十三日早朝、東京・新宿区の住宅街の路上で、山谷地区で労働者の支援をしている山谷争議団の幹部が暴力団員風の男に短銃で射殺された。警視庁捜査四課と新宿署では同争議団と暴力団の抗争事件とみて捜査している。同争議団と暴力団の抗争は以前から続いており一昨年には映画監督が殺されている。

一昨年は映画監督が犠牲

同日午前六時ごろ、東京都新宿区大久保一ノ三ノ一四の中、男性は都立大久保病院に路上で、乗用車で乗りつけた。運ばれたが、同六時半、死亡した。犯人二人は車で逃走、暴力団員風の男一人が男性一人に向け短銃を四発発射し、車は間もなく近くに乗り捨てた。合衆日本二二八ノ七、本間幹会金町一家の組員とけ



射殺事件のあった新宿区大久保の路上（13日午前9時すぎ）

山岡強一さん（右）

逃げた二人は、いずれも三十分前後で、短銃を撃った男は身長約一六五センチ、丸顔でパンチパーマ頭で黒い背広を着ていた。

最近、同争議団が暴力団目

んか騒ぎを起していることから、警視庁捜査四課と新宿署は同争議団と金町一家との抗争による殺人事件とみて捜査を始めた。

調べによると、同争議団は昨夜、会合を開いており、捜査当局ではその種りを持ち伏せした計画的な犯行と見ている。

山谷地区では、同地区をナワバリにし、仕事の支配を握っている暴力団グループと、

街の改革を訴え、手配師のピンハネ追放を叫ぶ新左翼系の活動家グループが対立、トラブルが所統的に起きている。

五十九年十二月二十二日には、同地区の通称山谷通りで、山谷を舞台とし、暴力団と山谷争議団（全国日雇労働組合協議会山谷支部）の抗争を激しくするドキュメント映画を撮影中のフリー映画監督、佐藤満夫さん（当時）も、暴力団日本国幹会金町一家西戸組の岡井栄一（ま）に刺殺されている。

西戸組は日雇労働者の手配師を傘下に収めようと同地区に進出、五十八年十一月の同組事務所開設時には同争議団と衝突、双方で三十九人の逮捕者が出た。

山谷争議団のメンバーだった山岡さんは、刺殺された佐藤さんと親交があり、遺体文庫「反撃への預言」に一文を寄せていた。

「また殺人事件か」

現場は住宅商店の密集地

顔ひきつらすす通行人

射殺事件があった現場は、大久保通りと明治通りの交差点から西に約五十メートル入った路上。付近には二十四時間スナックや喫茶店、飲食店、雑貨店が密集している。

山岡さんが撃たれた場所は、有限会社「住知不動産」前路上。同不動産の左隣にある「十四時間スナック」「サンチェイン」の店長（ま）は「朝六時半ごろ中年の男性客が、店の前で人が倒れている、と駆け込んできたんです。外へ出てみると男の人が倒れていた。暗かだったので、すぐに死んでいると分かった。金銭、体を動かさず頭から血を流していたが、それでも男の人は「ハイ」フコトを繰り返して、死体を見たら泣いていた。死体を見たあとにバイクや救急車が次々と来て男の人を運んで行った」と興奮した様子。

同店長の話によると山岡さんとは面識はないが、同スナックにはよく浮浪者ふうの人が買い物を来ていたという。事件当時、同スナック内には有線放送が流れていたため、同音声を聞かされたが、付近の数人の住民は発砲音を聞きつけ現場に駆けつけた。

山岡さんの死体が運ばれた後、現場の路上に飛び散った血は水で洗いに洗い流されたが、警察の鑑識員が倒れていた山岡さんの位置を指し

左白いチョークの線がそのまま残り、惨状の跡がくっきり。付近にはバイクや警視庁の覆面バイクが五、六台駐車していた。

午前七時半を過ぎると、通勤、通学などの通行人がどっと増えたが、通行人は二様に人体の形をかけたチョークの線を見て「誰か殺されたのか」「また殺人事件か」と事件がひん発する。大都市の恐怖に顔をひきつらさせていた。

「山谷」上映実行委への呼びかけ

このたび、国粋会金町一帯西戸組と大日本皇親会との、文字どおり死をかけた闘いの映画が完成しました。

つきましては、公開上映試写会を行ない、上映運動を行なうほかで中身を共有し差展させてゆきたいと思ひます。

— 西戸戦とは —

1983年、11月3日、迷彩服に身を固めた皇親会員16名がナチス棒と催涙スプレーで武装し、朝の山谷へ登場。山谷争議団にナチス棒をふり上げ襲いかかるが、千名の山谷労働者の決起でうちくだかれる。

この闘いを皮切りに、2年におよぶ戦場の火ぶたが切れておとされた。全国の日雇労働者によって、82.6月27日結成された全国日雇労働組合協議会(山谷争議団、春日労、笹日労、釜日労、福日労等)は、全国から仲間を動員して、寒食1年半の死闘を叩きぬき、大日本皇親会を山谷から叩き出し、手配師・人夫出しをたばね、山谷の労務機構をにぎろうとした山谷互助組合を解体・一掃した。

しかし、この闘いは、延べ60数名におよぶ逮捕者と、佐藤満夫監督の死であなわたりければならなかった。

では、なぜ、ヤクザをしてここまでやらせたのだろう。

①、長期結核化した不況下で、ヤクザ暴力団自体が、これまでのやり方ではやっていけなくなった。そこで統合するヤクザ同士、

既得権を守り少しでも拡大しなければならなくなっている。次にカズリを上げるにも暴力が、より一層必要とされる。

②、その暴力にしても、むき出しでは不都合なので社会的なせおりの認知が必要とされる。

「不況下での労資対立の激化、そして社会的差別の先鋭化に、右ひろの対応が求められる中で、暴力の社会化をとげんとする。そこで政治的表現が必要とされた。」(山谷争議団・山岡強一氏の意見陳述)

ヤクザの武装部隊が山谷に登場したのは、手配師をまとめたあがり互助組合に組織し、カズリを上げる為に右ひろの暴力として必然的に登場して来た。

この闘いは、マズコミ・奴力な言うような、ヤクザと左翼のなわばり争いではない。天皇を軸とした戦争に向けた排外主義動員と真向から対決する、赤旗か! 日の丸か! の闘いであった。

— 佐藤満夫さん虐殺される! —

「直之!!」とすさまじい叫びをあげて倒れ、体は血でまみれていく、みるみる顔は青ざめ、即死の状態だった。

1984年、12月22日、早朝、松井パン屋の前で、右翼・西戸組のはらった刺戟・筒井によって背後から胸をさされ虐殺される。享年37才。佐藤満夫監督は、83~84年の越冬・夏まつり、対西戸戦と山谷のたたかいを支援として叩きぬく。その蓄積の上に立ち、84年11月、更に深く、闘世場の闘いをとるべく「マニフェスト映像」

制作「闘いの経過」の上映運動のお願い

今年の12月2日日曜朝、この映画の監修である佐藤浩夫が天皇主義右翼・日本国社会党第一党西戸組の襲撃に狙われた。だがその夜、山形労働者は復讐の暴動に燃えあがり、宮廷の暗黒の幕の中で燃やした。

各団体に決意する日東労働者の熱い魂に燃れ、ひき続き闘われた越年。越年闘争を経て、この映画の書けて立つ構構が完成したが、見えないでいってしまった。フアンストに監督を奪われてもおかしくない。山形という闘いに燃えあがり、生きることに闘いである。ことを書き残っていた。

山形は日本農民労働者の衝である。別荘と田舎屋敷の交差する南郷の南郷。一帯にひろがる野原。そこに八千人を超える労働者たちが生活している。しかしそこには、地獄にない。東京の地獄を再現して、山形」という地名は足らない。一九六六年の「野原」である。その文字は抹消されてしまったのだ。資本制社会にあつては決してなくすことの出来ない。「寄せ集め」を、あつてはならない。山形」として思ふとどうなるかのよう。だが、山形はあくまでも山形である。そこに立つくちたちを、闘いに燃えあがり、生き残らば、労働者たちはこの闘いを「山形」と呼んでいる。

今年に天皇主義右翼がはじめて公開とされたのは一昨年十一月三日のことである。ナク西戸組が政治結社「皇國会」を名のり、この地で闘争的な組合活動を行っていた山形労働者を襲撃した。

山形は日本農民労働者の衝である。別荘と田舎屋敷の交差する南郷の南郷。一帯にひろがる野原。そこに八千人を超える労働者たちが生活している。しかしそこには、地獄にない。東京の地獄を再現して、山形」という地名は足らない。一九六六年の「野原」である。その文字は抹消されてしまったのだ。資本制社会にあつては決してなくすことの出来ない。「寄せ集め」を、あつてはならない。山形」として思ふとどうなるかのよう。だが、山形はあくまでも山形である。そこに立つくちたちを、闘いに燃えあがり、生き残らば、労働者たちはこの闘いを「山形」と呼んでいる。

したのだ。だがこの襲撃は一千名の労働者の復讐にあい失敗した。フアンストの真似しい宮廷カーは西戸組交点のど真中に張りめぐられ、ひっくり返され地上した。以降、約一六〇日間に亘る復讐の末、西戸組は連日「皇國会」の毒放を繰り返さざるを得なくなった。争議団と山形労働者は、先ずフアンストの出現を待たなければならない。

山形あるいは下野といふと、なぜかこの土地のイメージがつかまらぬ。しかしこの土地とは何か。福かに「寄せ集め」された労働者たちの反抗の現現である。闘い目に見える力である。だがそれを活かすのはナク西戸組や山形労働者の日常の力である。闘いにはあんなにやられたらやり返せ、これが寄せ集め労働者の会費である。

「この映画に映し出される三人の「死」は、寄せ集めの現実を示す。あまりにも革命的な「死」である。基礎公開での「野原」死、仕事でアフレタリ、半々コボルからトロンコ（エスカーン）した労働者はアオカン（野原）を襲撃される。そのよう労働者たちが「死」は、死はいつもある。また、精神崩壊に陥り込まれたり、双容崩壊に陥り込まれる労働者も少なくない。

ここでは労働者たちの人権は守るに等しい。ナク西戸組やリンチー、宇都宮病院に深山の日東労働者が殺害されたことを忘れてはならない。この「死」を少し先にのぼす。この「死」を少し先にのぼす。

また、精神崩壊に陥り込まれたり、双容崩壊に陥り込まれる労働者も少なくない。ここでは労働者たちの人権は守るに等しい。ナク西戸組やリンチー、宇都宮病院に深山の日東労働者が殺害されたことを忘れてはならない。この「死」を少し先にのぼす。

またアオカンにせざるを得ない。

「闘って野原に死なない」というような暴力支援に訴えられた。今度は反復の声をあげると、今度は多くの山形労働者があつてくる。寄せ集めではあつた。この「死」は、闘いにはあんなにやられたらやり返せ、これが寄せ集め労働者の会費である。

この映画は山形労働者たちの闘いと闘いを伝えるべく書かれた。闘いを伝えるべく書かれた。

闘いはあんなにやられたらやり返せ、これが寄せ集め労働者の会費である。

「闘って野原に死なない」というような暴力支援に訴えられた。今度は反復の声をあげると、今度は多くの山形労働者があつてくる。寄せ集めではあつた。この「死」は、闘いにはあんなにやられたらやり返せ、これが寄せ集め労働者の会費である。

この映画は山形労働者たちの闘いと闘いを伝えるべく書かれた。闘いを伝えるべく書かれた。

と本人も語っているように、この映画を、アジア侵略に向けた、国内内編、とりわけ、天皇を軸とするフアンストの右翼的言論と意図する戦う武器としていこうと知っていたにちなみありません。

■ 関西上映にあたって ■

まず、大阪をかわきりに西日本で上映運動をやり、反天皇制、労働運動の右翼言論と闘う仲間、寄せ集めの戦いに闘心を持つ仲間と出あってゆきたいと思っています。しかし、なにぶんまだまだ力です。そこで、以下のように、上映試写会を行ない、その上で上映実行委員会を、結成してゆきたいと思ひます。

ほんにかとおたしいと思ひます。是非参加してください。お願いします。

日時	1986年1月25日	P.M. 6:00~
場所	部落解放センター 4F	

※一回 関西上映集会

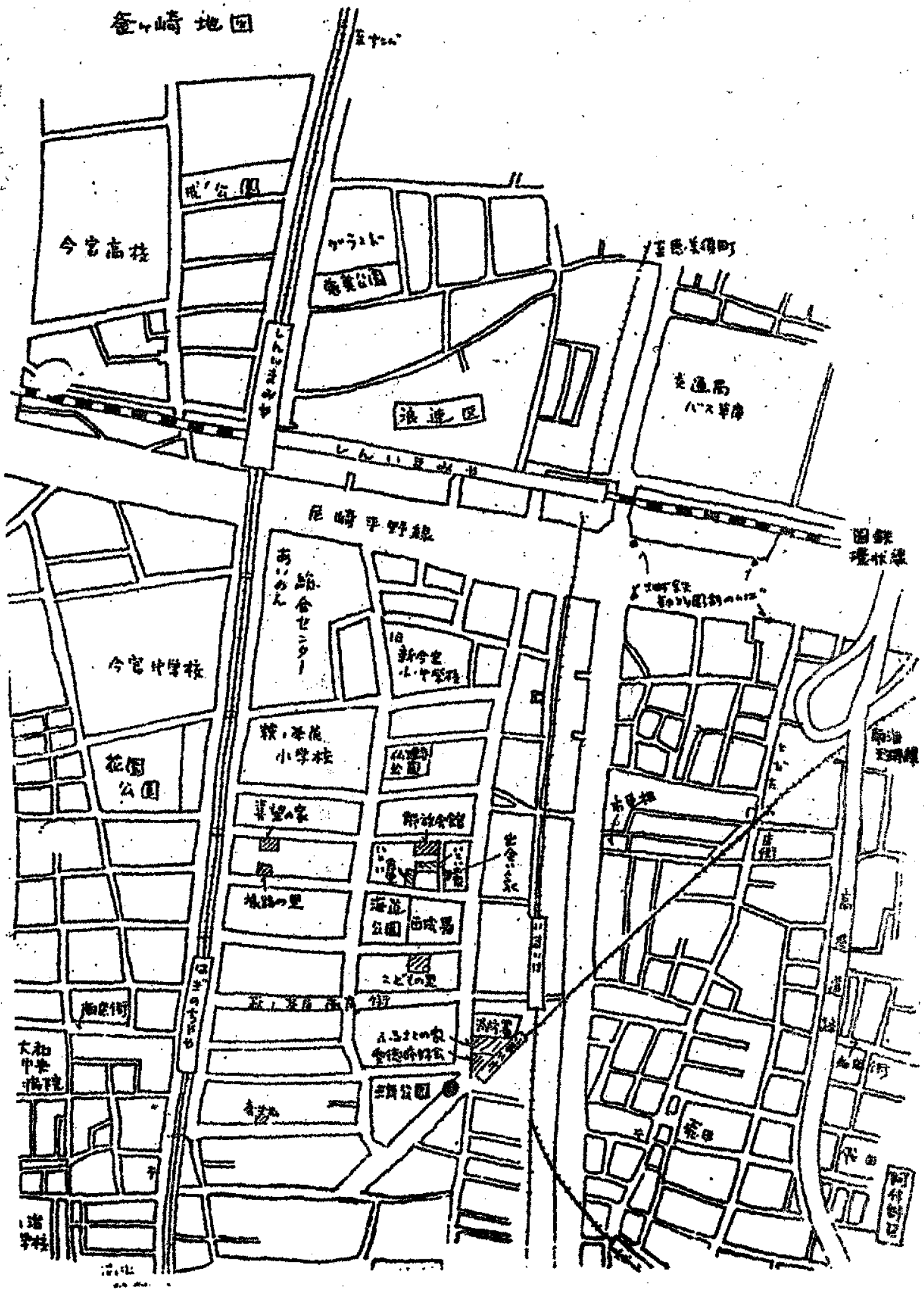
日時	3月1日・2日
場所	部落解放センター 2F
内容	映画「山形」と講演 (*2日は映画のみ)

講師 { 矢田解放塾々長 西岡 智氏
 山形争議団 風向 竜氏
 評論家 菅 孝行氏



監督の死後、制作上映委員会が結成されました。多くの仲間が力を添って、27日の佐藤浩夫監督「闘いの経過」展覧会を開催しています。その際、全国の寄せ集めを中心に自主上映運動を展開してゆきたいと思つております。全国上映運動をつくりあげ、多くの人々の入りのご協力をお願いいたします。 撮影・マニフェスト映像 16

釜崎地図





※16回 釜ヶ崎越冬闘争実行委員会

定価 500円